

R6年 いちご会 (11 期会) 活動報告

この会名の由来は「11期会」の一文字ずらせば「一期一会」となり、略して「いちご会」とした。毎年開催している15期会に触発され、我々と、宿泊を伴う懇親会を全国4地区に分けて持ち回りで基本年一回開催している。今年は何故か春と秋と2回の開催となったのでした。

いちご会 春の部 in 京都

報告者 加藤忠好

- ・実施日 2024 3/14(木)~15(金)
- ・場 所 京都観光の穴場地帯(東山と一休寺)
- ・参加者 12名 (添字は女性)
井上、井上k、片田、加藤、加藤s、上村、窪田、杉森、杉森e、向s、森川、高田s(10期)・・・一休寺だけ特別参加
- ・報告

昨年は、向さんのご主人の企画による越前の歴史散歩であった。綿密な計画を立てていただいたのに突然参加できなくなり、副幹事の井上夫妻の「車」を使わず「歩き」を主体に計画変更、「史跡一乗谷の城下町(一日目)」と「北前船の湊町、三国(二日目)」を見て歩くことができた。

近畿が担当の今年、矢崎さんは天国から、畔山さんは体の一部不調で気持ちだけ担当となり、残った加藤夫婦が独裁的に企画することになった。

まず頭に浮かんだのが、神戸港から大分へ往復とも夜行行路を使う格安弾丸船旅。朝に大分に着いて、別府温泉を自由ウロウロ、夕方船に集合という2泊3日も考えたが、前回は畔山夫妻の仕切りで紅葉の高野山を楽しんだので、やはり京都かな? 「そうだ京都に行こう!!」。しかも私らしく、人の少ない穴場の京都を歩くことに。

言葉では簡単だが、インバウンドでますます京都の宿は予約しにくい。しかも高額である。が、捜せばある。きれいで超京都らしいのがだ。

- ・夕食 家康ゆかりの夕食を堪能する
- ・朝食 根来汁を中心とした精進料理
- ・会費 2万円ポッキリ(夫婦はその倍額)

予約したのは「智積院会館」。昨年三国で歩いた時に立ち寄った滝谷寺の所属する真言宗智山派の本山の智積院が運営する宿坊なのだ。このなんとなく繋がっているのが楽しくも嬉しくもある。

朝寝坊の幹事夫婦のこと、当日遅刻する可能性が大なので前日から泊まることにした。洋間の二

人部屋はまるでホテルであった。しかも寺の境内だけに景色も良くゆったりしていた。

さて企画初日、宿泊所ロビーを集合場所としていたが、杉森夫妻と森川さんが京都駅から歩きで、井上夫妻、向さん、上村さんがタクシー利用でやってきた。これで、初日の東山界限の散策参加者全員が無事集合した。

荷物をロビーに預け、11時に宿を出発。国立博物館前からバスに乗ったが案の定バスは超満員。それも清水道バス停で大多数が下車、通常状態に戻る。我々は白川に架かる橋の上がバス停になっている知恩院前で降りた。



柳並木が揺れる白川あたりは京らしい風景としてよく撮影に使われている。石橋の後ろにある古門や、白川に架かる幅の狭い石橋「一本橋」などはTVによく出てくる風景だ。川沿いには豆腐屋もあり、私の好きな地域である。今回、ここに架かるいくつかの石橋を完全制覇した人もいた。

すぐ近くに「京都地検の女」に常時出てくる古川商店街がある。昨日も、その商店街の通りにある人気おばんざいの店「万両」で初日の昼食の下見したのだ。昼にはさぞかし満員と思ったが、すぐに座れた。さほど広くはないが、10人ぐらいは大丈夫。壁に一文字が草書で書かれた色紙が飾ってあったので「華という字ですか?」と聞くと、店の若い女の子が「ちがいます」と言う。すると奥から「華です」と声がして女将さんが出てきた。「今お習字を習っているのです。」すごく品の良い中年の女性だった。京言葉というのはこんなのかなと思われる話し方、知識も豊富で昔は芸妓さんでもしていたのかなという風情だったが、そこまで立ち入って聞いていない。「明日に10人弱で昼飯に来たいのだけど」というと、「明日はお習字の日なのでお休み」との返事。「で



京都散策の写真集

も、お酒が入ったお食事でお一人様 5000 円ぐらいの予算だったら何とかしまひょうか」という。観光臭さがなくそれでいて京都らしい店、一瞬グッときたが晩飯も似たようなものになるので「昼にお酒は嬉しいけどちょっと…」と断ったが、こんな機会は滅多にないと今でも残念な気がする。

よって、昼飯は神宮道のうどん屋「お福」にした。9 名しかも 12 時近くだったのでしばし待たされた。9 人も待っている風景を通りがかりの観光客は、人気の店と勘違いしたのかみるみる長い列ができた。待つ間に、幹事が「京都の庶民体験ならしっぽくうどんを食べるべし」の厳命を発したが、席は分散、誰が何を食べたのか不明である。

外からはやや広そうな店に見えたが、中はやや窮屈な店だった。平安神宮にも近いのでさもありなんと思った。うどんは出汁の利いた京風であったが、真っ黒になるまで炊いた椎茸も湯葉も見えず、やや無念だった。

店を出て、白川近くにある光秀の首塚に立ち寄り、「餅寅」の方の話をしたが、餅を買ったかどうかが思い出せない。それから古川商店街を歩き、東山三条から清水寺方面のバスに乗り馬町のバス停で下車。裏道で「大仏殿跡緑地公園」に出た。



実は、京都には奈良より大きな方広寺の大仏と大仏殿とがあったが、江戸後期の寛政 10 年(1798)落雷で燃えてしまった。ここは秀吉時代の大仏の礎石が発掘された場所である。当時はここから正面通りに通じていたらしいが、今は明治時代に建てられた豊国神社が前面に立ちはだかっている。

秀吉の建てた方広寺は広大であったそうであるが明治時代に土地をとられ、国立博物館や豊国神社が建てられ、寺は北隅に追いやられている。一方、方広寺は「国家安康」で有名な寺でもある。家康からイチャモンをつけられたが、当の梵鐘が現存しているというのは歴史の妙味である。

豊国神社には蜂須賀桜という早咲きの桜が咲いていた。門前にあるやや風雅な「甘春堂」に入った。宿から近いので、ここで今日のお茶会用の菓

子を注文していたのだ。饅頭をはじめ、上生菓子、きんとん、餅や求肥で包んだ菓子も一律約 500 円。さすがに京の菓子は高めである。



宿に帰ると片田さんと窪田さんが待っていた。

チェックインを済ませ、女性 4 名は洋室と和室に、男性 7 名は洋室と広間に部屋割りをした。広間にはトイレが二ヶ所あり便利な部屋であった。

風呂に入り、17 時半に夕食、ホテル風でも宿坊なので禁酒かと思ったら可であったので驚いた。また、家康ゆかりの夕食は精進料理ではなく、鴨や魚を使ったものであった。鯛の天ぷらもあったと思うが、家康とは違い腹痛には至らなかった。根来塗だろうか、朱塗りの椀での料理に有難さが伝わってくる。その後、広間でお茶会を実施。金沢の和菓子のレベルが高いために、買い求めた菓子はさほどでもなかった。しかしお茶会自身はあれやこれやで楽しい時間が過ぎて行った。

翌朝(14 日)、5 時 40 分にロビーに集合、まだ明けやらぬ寒気漂う薄闇の中を本堂に移動。これから勤行に参加するのだ。多くの僧による声明が心地よい。さすがに智積院は本山だけあって、修行僧も多くいた。次いで明王殿に移動した。ここは護摩木を焚き太鼓を打ち鳴らすなど炎と音の饗宴、本堂の勤行が「静」ならば明王殿のはまさに「動」なのだ。約 1 時間の勤行を終え外に出るとすっかり夜が明けていた。



智積院の写真集



僧の案内で境内を拝観。説明付きで拝観できる

のは宿泊者の特権だ。庭園は「東山随一の庭園」「利休好みの庭園」といわれているらしい。園内には入ることが出来ないが、山を利用しているので高低差が大きく変化に富んでいる。しかも大書院の縁側に坐して眺められるのがうれしい。

宿に帰って精進料理の朝食。我が家の朝食に比べると豪華である。まだ時間があるので、長谷川等伯・久蔵親子の国宝作品を収蔵館で鑑賞し、再度大書院に入りゆっくりと時間に追われることなく庭園や障壁画を眺めた。宿泊者は無料だった。



一休寺の写真集

宿を10時に出発、京都郊外の一休寺に向かう。途中、創業70年という「井上製パン」で昼食を購入、京阪七条駅10時半頃の京阪電車に乗り、丹波橋駅で近鉄に乗り換え、新田辺駅には11時頃着いた。駅前に一休さんのオブジェがあり記念撮影。10期の高田さんが車で駅まできてくれたので向さんと井上さんと手荷物を乗せてもらった。車中の女性三人の心はきっと学生時代に戻っているに違いなかった。

駅から一休寺までは距離にして30分強だが我々は11:34発のバスを待った。バスだと遠回りをして10分強で運んでくれるからだ。一休寺バス停で下車、一旦、一休寺の前を通り過ぎ、薪(タチ)神社まで行く。ここには児童公園もあるので、春の日差しを浴びながらの昼食とした。



一休寺の方丈には、南北朝、室町、江戸期の3幅の涅槃図が掛けられていた。釈迦の命日が2月15日であるが、ここでは旧暦をほぼ守り一ヶ月遅れで実施していた。特別企画でも拝観料は500円といつものと同じであった。京都市中と違い、ここではこんな日でも比較的閑散としていた。方丈庭園や境内をゆっくりと見て回った。ここではやっと寒緋桜が咲き始めていた。

京田辺には約3時間半居たのかな。高田さんとは近鉄新田辺駅で別れ、我々は京都に戻った。

いちご会 秋の部 in 湯の山温泉

報告者 窪田安英

- ・実施日 2024 10/1(火)～2(水)
- ・場 所 湯の山温泉 (三重県御在所岳山麓)
- ・参加者 13名
畔山、井上、井上k、加藤、加藤s、上村、北川、窪田、杉森、杉森e、向、向s、森川



・報告

会のメンバーもはや喜寿前後(ご夫婦での参加もあり)となりましたので温泉と食事はもちろんですが、移動条件も重要な要素となっています。

そのようななか、2024年秋はいちご会東海支部(幹事長:杉森、幹事:杉森悦、森川、窪田)で企画運営をしました。

約5か月前の5/10に幹事長から幹事への基本企画書の提案メールがありました。それについて移動の利便性、オプションを含めた景色等の魅力度の観点から当初案を変更、5/22に二日目のオプションも含めて決定。この間の打ち合わせは気心が知れた4人ということもあって遠慮なし・本音での建設的な意見・提案を全てメールのみで実施。

4か月前の5/29に開催日程が行楽・イベントのハイシーズンということもあって、いちご会全メンバーに日程の確保のお願いも兼ねて開催案内(初報)をメール、但し参加可否の返信期限は先の予定が不明な方が大多数と思われるので余裕の9/10とした。また6/3にはKUWV近畿支部の掲示板に上記内容をアップ完了しました。このサービスは探し物に手を焼く・物忘れの年頃になった者としては助かります。

3か月前、8/1～2に幹事長の杉森君ご夫妻が交通手段の詳細、宿泊を伴う現地現物の調査・打合せを実施された。その情報をもとに天候不順時のオプション対応を含め詳細を決定。

約1.5か月前の8/19に第2報の全員への詳細案内をメール。その後参加者の確定をしました。

さてここからは、二日間の行動および活動内容振り返り、その概要を紹介します。



希望荘の写真集

集合場所は、名古屋駅の新幹線改札近くの待ち合わせスポットとして名古屋では知られている通称「銀の時計」としました。参加者は基本的に新幹線を利用して名古屋へ移動でしようし、また、幹事団としても、なかなか会えないメンバーと可能な限り長時間一緒にいて積もる話、情報交換ができるからです。次に JR 名古屋から近鉄名古屋への移動も、地元人でもほとんど知らない迷路にあるエレベーターを利用しました。つまり楽になる文明の利器は使うべしです。

四日市駅にて湯の山線に乗り換えたら、畔山君がジョインしました。今回は都合により宴前までの日帰りとのことでしたが元気でした。終点湯の山温泉駅からはホテルの迎バスに乗り約 10 分の山岳ドライブ、ホテルの山上館に到着。そこで金沢からの車移動組の井上夫妻および向夫妻と合流。チェックイン後ケーブルカーにて本館へ移動。ここでは早着サービスとしてフルーツの盛合せとドリンクサービスがあり、しばしの歓談。ここでこの鈴鹿国定公園内にある宿を簡単紹介を。名称は「希望荘」でまだ全国 30 数施設しか認定されていない三重県初でもある厚生労働省認定の“温泉利用プログラム型健康増進施設”とのこと。しかし浴用適応症の表示は高血圧症、神経痛等の温泉施設と同じようで相違点はありませんが、我々の年代には嬉しい項目が表示されているので問題はありません。



部屋割は女性専用、幹事兼談話室兼お茶会用の多目的用、残りのメンバー用の 3 つです。いちご会の定番項目の一つは各地の名物・お菓子を持ち寄り、各自持参の茶碗と加藤君の山用の茶碗（例えるならマトリョーシカのように幾つかがコンパクトに収まっている）にて森川宗匠のお点前で抹

茶をいただきます。二つ目は宴の際の近況報告です。移動中、部屋でも会話が弾んでいたにもかかわらず生命起源の勉強もしている上村君、長年にわたる大作の執筆を完了させた北川君など多分野にわたる話もあり、所定時間ぎりぎりまでとなりホテルの会場担当者から苦言をいただきました。



二日目、伊勢湾からのご来光が部屋から見え、天気が良かったこともあって最高でした。

この日はオプションとは言っても日帰りの宿泊者全員が御在所岳参加です。まずは湯の山温泉駅から山上公園



駅へは御在所ロープウェイにて。途 御在所岳の写真集中、日本一高い白鉄塔（6 号鉄塔）付近では鷹見岩と恵比寿岩、また、山上駅手前では大黒岩など奇岩・珍岩が多数鎮座しているのを見ることができました、ただ紅葉には少し早すぎたようです。

ゴンドラを下車後まず朝陽台広場へ。少しガストって北アルプス、名古屋市街は見えませんが気持ちの良い秋でした。次に観光リフトにて御在所岳頂上へ。そこには 1,212m の一等三角点がありました。記念写真をパチリ。元気印の猛者連中は望湖台と呼ばれている岩場まで足を延ばし琵琶湖などの景色を堪能したとか。ここで予定のある向夫妻が別れ、残りは展望レストラン「ナチュラル」移動しランチ。御在所カレーラーメンや御在所定食等、各人好みの昼食を食べました。その後、再びロープウェイにて下山。湯の山温泉のバス停にては、伊勢神宮に向けて車移動の井上夫妻が別れ、残りはバスで近鉄湯の山温泉駅へ移動、四日市経由名古屋駅着。そこで土産調達などして無事解散しました。

開催数日前には台風が来る情報もあり心配しましたが、二日間とも素晴らしい天気になり大変楽しひと時をすごすことが出来ました。

次回は向夫妻、井上夫妻が幹事です。今後もいちご会が長く続けられるよう祈念します。



御在所岳の展望